

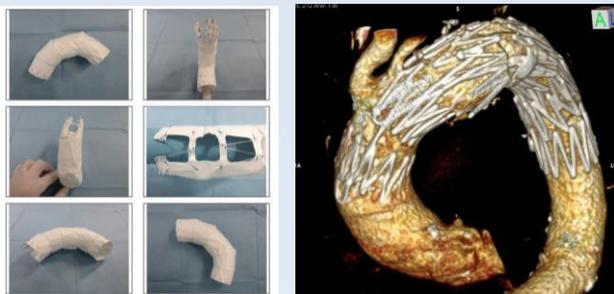
順天堂大学練馬病院外科だより

進化するステントグラフト治療

大動脈瘤に対する低侵襲治療であるステントグラフト内挿術が日本に導入されてからすでに10年以上経過しています。その間治療デバイスも進化を続け、胸部では頸部分枝部にセミオーダーメイドで窓を形成し、より複雑な症例に対応可能なグラフト、腹部では今まで塞栓術で閉塞せざるを得なかった腸骨動脈領域の症例でも分枝温存可能なグラフトも登場しております。

また、ステントグラフトは鼠径部からアプローチしますが、現在当院では約8割の症例で切開せず、穿刺のみで行っており、痛みや合併症の少ない患者様の満足度の高い治療となっております。

大動脈瘤でお困りの患者さんがおりましたら、いつでもお気軽にご紹介、ご相談ください。患者様と共に最善の治療法を考えてまいります。



胸部開窓型ステント(Najuta)



内腸骨動脈温存グラフト



鼠径部 穿刺創(5~6mm)

順天堂練馬病院 心臓血管外科 土肥静之

進化する消化器外科手術

当院は大学の医学部附属病院で東京都のがん拠点病院でありながら、地域の災害・救急拠点病院でもあります。そのため当科ではがん診療のみならず、一般外科診療から3次救急に至るまでの幅広い外科診療を地域に密着し行なっています。2006年の開院当初は消化器疾患の外科治療は開腹での手術が中心でした。その後、低侵襲とされる腹腔鏡下手術中心の時代を経て現在はロボット支援下手術がほぼすべての領域で保険収載されるようになりました。当科でも2021年7月よりロボット支援下手術を導入し、これまで大きな合併症を起こすことなくより低侵襲な外科手術を行っております。現在は直腸、結腸、胃、ヘルニア(自費診療)のロボット支援下手術を導入しておりますが、2023年度中には肝臓、膵臓領域にも導入を目指しております。

これからも地域の皆様に安心安全で高度な医療を提供できるよう日々努力していきたいと思っております。



順天堂練馬病院 総合外科 渡野邊郁雄